第1回八峰町学校適正化検討委員会

会議概要

- 【日時】 令和6年5月24日（金） 午後3時～午後4時35分
- 【場所】 八峰町文化交流センター「イベントホール」
- 【出席者】 委員 山本優人、菊地薫、笠原吉範、水木壽保、佐藤勇一、阿部富廣、
菊地聡、伊藤一八、福司竜介、安部晃幸、山内賢也、年代信弥、
千葉良一、川尻茂樹
- 【事務局】 教育長 鈴木洋一、教育次長 山本節雄、学校教育課長 山本 望、
学校教育課副課長 鈴木美由紀、学校教育課課長補佐 工藤 猛、
学校教育課指導主事 近藤 均
- 【欠席者】 委員 千葉 一、武田寛之

会議次第

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 教育長挨拶
4. 委員長、副委員長選任

※委員の互選により委員長 川尻茂樹氏 副委員長 佐藤勇一氏を選任

5. 協議案件（資料説明及び意見交換）

【八峰町学校適正化検討委員会会議資料】

- ① 児童・生徒数の推移について
- ② 検討委員会の趣旨について
- ③ これまでの学校統合の経緯について
- ④ 小規模学校におけるメリット、デメリットについて
- ⑤ 今後のスケジュールについて

※別添の会議資料を説明

6. その他
7. 閉会

○主な意見

- 議会からも早く統合に向け検討することとしているため、資料の今後のスケジュール案では遅く、もっとスピード感をもって対応すること。
- 財政面からも統合するべき。小学校2校分の費用が発生している。
- 子どもの教育環境面を考えても統合するべき。
- 地域よりも、子どもの学校環境や財政面を考慮して統合するべき。
- 財政面よりも子どもの環境面が大事で、クラス替えができる規模がほしい。
- アンケートの意義（否定的、アンケートにより統合しないという判断はありえるのか）。統合ありきでもよい。
- 小中一貫校も視野に検討を。
- 統合ありきで、スクールバスや支援員配置の充実を検討したほうがよい。
- 早く統合したほうがよい。
- 小人数だと課題のある子どもがいればクラス全体への影響が大きいということもあり、統合を進めるべき。
- 小規模だと高校に入ってから適応できない場合も考えられる。
- 児童生徒の推移をみれば統合はしかたがないと考えるが、2小学校から中学校に進学する場合は、環境が変わり刺激もあるという面もある。
- アンケートは、どのような学校（統合校）にするかも含んだアンケートであればよいと考える。
- 統合しても将来的には複式学級になると予想される。
- 統合はしかたがないが、後に禍根を残さないようにアンケート等により保護者や町民に諮ることも必要と考える。
- 統合は現在の保護者の問題ではなく、まちづくりの話であるため提案のアンケートは不要と考える。
- 統合する学校をどうしたいかのアンケートならやるべき。
- 子ども園の統合は考えないか。
(回答) まだ考えていない。幼児には手厚く対応することが必要である。
- 子ども園保護者の意見も聞くこと必要である。
- 結論として小学校の統合ありきでよいのではないか。
- 少子化によりPTA活動などは保護者の負担が大きくなっている現状である。
- 急に子どもの数が増えることは考えにくい。先を考えると市町の枠を超えることも必要か。昔は市町村の枠を超えて学校を設置していたケースもある。
- 町に学校を残すこと。少なくなったら都会からの交流受け入れ等を進め、学校を維持するための学校づくりを目指す。
- 前回の統合では、ここまで少子化が進行しないという期待があったが、今は先が

見えているため、将来的に不安である。

- 小中一貫校や義務教育学校も視野に入れながら、統合の方向に向けて検討していかなければならないということが検討委員会の合意か。
- 学校統合問題は一つ躓くと大きな問題になる可能性がある。広く意見を聞く場をつくる必要がある。
- 児童生徒数の推移をみると減少に驚いているが、町民は知らない。周知が必要であり現状を知ってもらうには広報が一番良い。
- 児童生徒数の推移は広報に掲載する。それと本会議の意見も載せ、町民の意見を求めることで進めたい。

(全員の感想)

- 子どもが3人いて、ちょうど少子化の世代にいる。早めに統合が必要と考える。
- 少子化、児童生徒の減少率が大きい。早めに進める必要があると考える。
- PTAとしても統合したほうが負担が減るし活動も活発になるのでは。
- 自治会に子どもがいない。スポ少も部員が少ない。早めに統合したほうがよい。子どもが増える政策を望む。
- 子どもを一番に考える。この学校でよかったと思えるような学校づくりに努めたい。早めに対応が必要である。
- 学習環境の充実を考えると統合は必要と考える。町の財政が厳しくなることも含めて町民の理解を図っていくことが大事だと考える。
- 保護者や町民に統合に向かっていることについて知ってもらうことが大事である。
- 何よりも子どもを一番に考えること。
- 地域に子どもが少なくて寂しい思いをしているが、時代の流れで統合はしかたがない。
- 町の財政や住民感情もありますが、まずは安心して勉強ができる状況にすること
- 子どものことを一番に考え、切磋琢磨し、大人数の中で育っていくことが良い。
- とにかく前に進むことが大事である。
- 子どもへの学習環境を手厚くするためには統合が必要である。
- 子ども園もいずれ統合必要になる。
- 八峰中学校付近を教育エリアにしてはどうか。
- 学校統合という言葉の重さがある。統合しても子どもが増えず解決はしていないが良い案は浮かばない。
- 中学生に聞くと兄弟がいる人が多いが、子どもが増える方法を考えたい。